

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月1日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21300221

研究課題名（和文） 体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of the In-service Training Program for Continual Professional Development in Physical Education Teachers

研究代表者

木原 成一郎（KIHARA SEIICHIRO）

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：20214851

研究成果の概要（和文）：小学校の教師は、体育授業の指導「力量」や研修の必要度に多様性があることが分かった。こうした様々なニーズを持つ小学校の教師が体育授業に関する「力量」を形成するために、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していく校内研修を組織化する現職教育プログラムを開発した。また、体育を研究教科として担っている教師は、積極的に学校外に「力量」を形成する場を求めている。そこで、校内研修の指導者を養成するために、体育指導に積極的に関与している教師を学校外の研修や研究会に参加させる現職教育プログラムを開発した。

研究成果の概要（英文）：

It is found that elementary school teachers have various needs in-service training and professional development for teaching physical education. We developed the in-service training program that physical education coordinators organized on-job training within their schools in order to communicate and share information about teaching physical education. Also teachers who researched teaching physical education wanted to get chances of in-service training program out of schools. So we developed the in-service training program that physical education coordinators took part in professional development for teaching physical education out of schools.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
年度			
総計	11,100,000	3,330,000	14,430,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、身体教育学

キーワード：体育教師、体育授業、現職教育、力量形成、学級担任、体育主任、校内研修、同僚

## 1. 研究開始当初の背景

国内ではここ数年、教員養成段階の学生の成長に関しては、模擬授業の効果を「授業実施能力」「授業計画能力」「授業評価能力」「省

察」という諸点から明らかにする研究が蓄積されつつある（e.g. 岸本, 1995；長谷川他, 2003；日野, 2003；岩田, 2008；木原他, 2008；徳永, 2008）。しかしながら、現職教育段階

での体育教師における力量形成過程を明らかにする研究は、まだ始まったばかりである。

他方、国外における体育教師の成長に関する研究は、英米圏を中心にこの10年で飛躍的に蓄積が増加した。これらの体育教師教育の研究の多くは、教師の成長自体が個別的で学校の文脈に沿った特殊なものという性格を踏まえ、事例研究やアクション・リサーチ、さらにはグラウンデッド・セオリーという質的な研究方法を採用している。

英米圏のこれらの研究から示唆されることは以下の2点である。第1に、研究の方法について全体的傾向を把握する量的な質問紙調査と学校ごとの特殊な文脈を理解し個性的な教師の力量形成を捉えるインタビュー等の質的な調査を併用する必要性である。第2に、授業における子どもの学習の改善に効果があるかという観点から現職教育の効果を教師に問う必要性である。

本研究は、H18年度からH20年度まで研究代表者が代表者として遂行した『実践的指導力』を育成する体育教師教育プログラム開発のための実証的研究」基盤研究(B)(一般)の研究成果を以下の2つの方向で発展させるものである。

(1)体育教師の力量形成は、教員養成から採用そして現職研修と生涯にわたって続く過程である。これまでの教員養成段階の力量形成を保障する体育教師教育プログラムの成果を、採用後の現職教育の力量形成に発展させる。

(2)現職教育を通しての教師の力量形成が学校の授業における子どもの学びの改善に効果があるという視点の採用である。教師の力量形成による体育授業の改善が体育授業における基礎・基本の習得を子どもたちにもたらせることを意図した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、義務教育段階における体育教師の継続的な「力量」形成を保障する効果的な現職教育のプログラムを開発することである。

## 3. 研究の方法

1年次は、免許更新制講習参加者を対象に全体的傾向を把握する量的な質問紙調査を実施した。2年次に、質問紙調査者の中から選んだ事例を対象に学校で行われる校内研修に参加し、教師の力量形成に効果的な現職研修の要因を捉えるインタビュー等の質的な調査を実施した。3年次に質問紙調査と事例研究の結果を総合的に解釈し効果的な現職教育プログラムを開発した。

本研究における研究代表者・研究分担者及び研究協力者の役割・相互関係を図示すると図1のようになる。

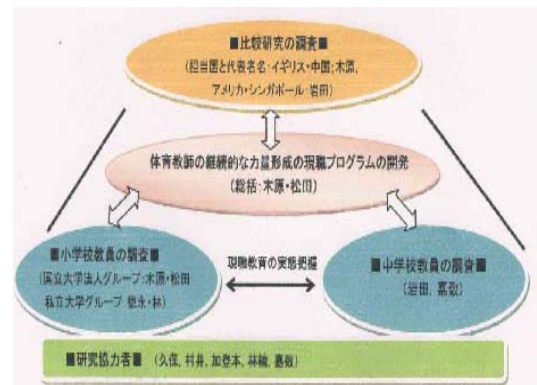


図1 研究協力者の役割・相互関係

これらに示されているように、本研究は木原が総括を務め、学校階梯や現職教育の実施形態の相違にあわせて、実態調査をそれぞれの分担者が行い、相互に連携を密に取りながら研究を進めた。

調査用質問紙の開発は松田と木原が担当した。広島大学は木原、松田、岩田、安田女子大学は徳永、九州女子大学は林と各勤務校で実施する免許更新制講習での質問紙調査の実施をそれぞれの研究分担者が実施した。それらの質問紙の結果の集計と考察は、小学校教員班と中学校教員班に分かれて行った。小学校教員班はさらに、国立大学法人グループとして木原と松田が担当し、私立大学グループとして徳永と林俊雄が担当する。また中学校教員班は岩田が担当した。

また、現職教育での継続した職能成長を制度的に構築しつつあるイギリス、アメリカ、シンガポール、さらに小・中学校と体育教師の専科制をとっている中国を比較の対象に、日本と諸外国の比較研究を実施した。イギリスと中国の現地調査を木原が、アメリカとシンガポールの現地調査を岩田が担当した。

## 4. 研究成果

3年間を通した研究成果は以下の4点にまとめられた。

(1)小学校の教師が体育授業の研修に求めている「力量」は、運動を教えることに関する「技術指導」と、一人ひとりの子どもに対して適切に指導や評価を行うことに関する「子ども把握」、そして子ども全体に対する「マネジメント」であった。

(2)すべての「力量」について、体育主任を経験している教員は相対的に必要度が低い傾向がみられ、反対に若い教員や女性の教員が多く含まれる集団は必要度が高い傾向がみられた。そこから、体育主任や研究教科で体育を担当している教員が若い教員や女性の教員に対して積極的に情報の伝達・共有化を行うことが、「力量」形成に有効な方法として示唆された。

(3)小学校の教師が体育授業に必要な「力量」の形成に関する情報を、主に職場の「同

僚」から、次に「文献」や「HP」を通して入手している事実が明らかとなった。

(4)これらの事実から、様々な教師が体育授業に関する「力量」を形成するために、体育指導に積極的に関与する立場にある教師が中心となり、学校内において情報を伝達し共有していく校内研修を組織化する現職教育プログラムを開発した。また、体育を研究教科として担っている教師は、積極的に学校外に「力量」を形成する場を求めている。そこで、校内研修の指導者を養成するために、体育指導に積極的に関与している教師を学校外の研修や研究会に参加させる現職教育プログラムを開発した。

今後10年間で50歳代教師が大量に退職すると、ミドルリーダー層の多くは管理職にかなければならなくなり、新人教師が学ぶことのできるベテラン教師が不足し、学校現場の人材育成力の低下がもたらされる。こうした現状において、本研究が提案した現職教育プログラムは、体育授業の指導「力量」を育成するために必要な役割を果たすことが予想される。

今後の本研究の展望として以下の3点が指摘できる。

(1)我々が開発した校外研修と校内研修の現職教育プログラムを企画して実施し、その有効性を検証することが求められる。

(2)アンケート調査による教師の一般的な意識調査をもとに提案した現職教育プログラムの有効性を、リアルな生活との相互関係の視点から把握するために事例的で質的な研究方法を採用して調査を継続する。

(3)今回の研究で当初予定していた通りに取り組みなかった中学校における保健体育教師の意識調査を実施して分析し、義務教育全体の体育授業を指導する教師に必要な力量を形成する現職教育プログラムを開発することが求められる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計18件)

- ①木原成一郎・久保研二・藤本翔子・村井潤・大後戸一樹、小学校体育授業における「若手教師」の思考の変化：変化を促した要因を中心に、学校教育実践学研究、査読無、18号、2012、141-150、
- ②徳永隆治・加登本仁・藤本翔子、小学校現職教員の求める研修内容に関する調査、広島体育学研究、査読有、38巻、2012、22-30
- ③林楠・木原成一郎・岩田昌太郎、中国の体育教員養成カリキュラムにおける教育実習に関する事例研究、体育科教育学研究、査読有、28、2012、印刷中
- ④岩田昌太郎・加登本仁・松田泰定・木原成

一郎・徳永隆治・林俊雄・久保研二・村井潤・嘉数健悟・林楠・藤本翔子 保健体育教師の悩み事に関する調査研究、学校教育実践学研究、査読無、18号、2012、151-158

⑤村井潤・木原成一郎、小学校教員養成における体育科関連科目の授業改善に関する事例研究—学生の「学びたいこと」に着目して—、体育科教育学研究、査読有、28(1)、2012、印刷中

⑥林俊雄、子どもを育む環境としての学校、教師、授業、子ども未来学研究、査読無、第6号、2011、29-34

⑦村井潤・木原成一郎・大後戸一樹、小学校教育実習における指導の特徴に関する研究：実習生の実態を踏まえた反省会での指導に着目して、体育学研究、査読有、56(1)、2011、173-192

⑧村井潤・木原成一郎・松田泰定・岩田昌太郎・久保研二・徳永隆治・林俊雄・藤本翔子・加登本仁・林楠・大後戸一樹、小学校教師が現職研修に求める機能に関する事例研究—体育科の校外研修の参加者に対するインタビューを手がかりに—、広島大学大学院教育学研究科紀要. 第一部、査読無、60、2011、73-80

⑨久保研二・木原成一郎・村井潤・藤本翔子・大後戸一樹、小学校体育授業における「若手教師」の思考の変化に関する研究、広島大学大学院教育学研究科紀要. 第一部、査読無、60、2011、135-142

⑩加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟、体育授業の悩み事に関する調査研究(その2)—悩み事の解決方法を中心として—、学校教育実践学研究、査読無、17号、2011、169-174

⑪徳永隆治、体育授業に関する学生の力量形成についての事例的研究—教育実習・模擬授業による困難意識の変容—、児童教育研究、査読無、20、2011、99-105

⑫徳永隆治、学習指導要領における体操と体づくり運動からみえてくるもの、体育科教育、査読無、59巻、2011、22-25

⑬嘉数健悟・岩田昌太郎、シンガポールの教員養成と現職研修のプログラムについて—NIEでの調査を手がかりに—、教育学研究ジャーナル、査読有、7号、2010、1-10

⑭林俊雄、子どもが自覚的に習得できる学習規律の指導、体育科教育、査読無、58-5、2010、48-51

⑮林俊雄、学習規律は間接的指導による自覚的習得でこそ、たのしい体育・スポーツ、査読無、29-11、2010、12-15

⑯加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟、体育授業の悩み事に関する調査研究(その1)—教職経験に伴う悩み事の差異

を中心として一、学校教育実践学研究、査読無、16、2010、101-109

- ①木原成一郎・林楠、イングランドの現職教育に関する研究—リバプール・ジョン・モア大学のメンター資格認定に焦点化して一、学校教育実践学研究、査読無、16、2010、89-100
- ②岩田昌太郎、数字からみる体育科教育の新天地への道標、学校教育、査読無、第1110号、2010、12-17

[学会発表] (計8件)

- ①村井潤・木原成一郎、小学校教員養成における体育科模擬授業のふり返し内容に関する事例研究、日本スポーツ教育学会第11回大会、2011年11月12日、兵庫教育大学
- ②木原成一郎、体育授業における「若手教師」の思考の変化を促した要因、日本スポーツ教育学会第11回大会、2011年11月12日、兵庫教育大学
- ③村井潤・木原成一郎・松田泰定、小学校教育実習における実習生のふり返し内容に関する事例研究—体育科授業の反省会に着目して一、日本体育学会第62回大会、2011年9月27日、鹿屋体育大学
- ④徳永隆治、体育授業に関する学生の力量形成についての事例的研究—教育実習・模擬授業による困難意識の変化について一、日本体育学会、2010年9月10日、中京大学
- ⑤木原成一郎、観点別学習状況の評価の課題と展望—体育科教育を中心に、教育目標・評価学会(招待講演)、2010年12月12日、共愛学園前橋国際大学
- ⑥加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・他3名、体育授業の悩み事に関する調査研究—現職教師からみた悩み事の構造—、スポーツ教育学会、2010年10月11日、国立オリンピック記念青少年センター
- ⑦Lin Nan, Xie Juan, Kihara Seiichiro, Matsuda Yasusada, 他4名、A Study on the Physical Education Teachers' Difficulties about Teaching Physical Education at Elementary Schools in China—スポーツ教育学会、2010年10月9日、国立オリンピック記念青少年センター
- ⑧加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟、体育授業の悩み事に関する調査研究—教職経験に伴う差異について一、日本体育学会第60回大会、2009年8月28日、広島大学

[図書] (計4件)

- ①木原成一郎、創文企画、教師教育の改革：教員養成における体育授業の日英比較、2011、325

②木原成一郎・岩田昌太郎他、創文企画、体育科教育学の現在、2011、193-207、223-238

③木原成一郎・岩田昌太郎・加登本仁・久保研二・徳永隆治・村井潤・嘉数健悟・林楠、明和出版、教師として育つ：体育授業の実践的指導力を育むには、2010、2-7、14-25、50-62、71-77、90-95

④松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄他、学術図書出版社、新版 初等体育科教育の研究、2010、2-22、55-97、100-127、146-197

[その他]

・雑誌論文の①④⑧⑨⑩⑬⑭⑯は以下の広島大学学術情報リポジトリで公開。

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/meta-bin/mt-pmtlist.cgi>

・雑誌論文の⑦は以下のJ-Stageで公開。  
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjpehss/-char/ja/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木原 成一郎 (KIHARA SEIICHIRO)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：20214851

### (2) 研究分担者

松田 泰定 (MATUDA YASUSADA)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：10033656

徳永 隆治 (TOKUNGA RYUZI)  
安田女子大学・文学部・教授  
研究者番号：60310843

林 俊雄 (HAYASHI TOSHIO)  
梅光学院大学・子ども学部・准教授  
研究者番号：50441621

岩田 昌太郎 (IWATA SYOTARO)  
広島大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号：50433090

村井 潤 (MURAI JUN)  
広島大学・大学院教育学研究科・助教  
研究者番号：90610890  
(2009-2010は研究協力者)

### (3) 連携研究者

(4) 研究協力者  
加登本 仁 (KADOMOTO HITOSHI)  
広島大学・大学院教育学研究科・大学院生

林 楠 (LIN NAN)  
広島大学・大学院教育学研究科・大学院生

嘉数 健悟 (KAKAZU KENGO)  
広島大学・大学院教育学研究科・大学院生  
(2011年より沖縄大学講師)

久保 研二 (KUBO KENJI)  
広島大学・大学院教育学研究科・大学院生  
(2010年より広島大学・大学院教育学研究  
科助手)